

栄養塩を漁業生産につなげるための取組

漁業生産に必要な栄養塩管理方策を実施するとともに、水産施策としてそれらの効果を最大限に漁業生産につなげる取組を実施することが必要である。

1 干潟・浅場等の場の造成

○あさりやさかな漁場総合整備事業

- ・二枚貝の資源増大を図るとともに、水産生物の産卵・育成の場を造成する。また、二枚貝が有する水質浄化機能の活用によって漁場環境を改善する。

○貝類増殖場造成事業

- ・砕石を漁場に設置し、砂の移動を抑え地盤を安定させることで、アサリの生残率が向上する試験成果を活用し、砕石を利用した増殖場を造成する。



2 資源管理と漁場管理

○資源管理と栽培漁業

- ・従前から漁業者団体が実施している資源管理について、現在の資源状況を考慮し効果的に実施するよう指導する。また、栽培漁業センターにおいて新規魚種として水質浄化機能を担う二枚貝類（ミルクイ、ハマグリ）の種苗生産を行う。

○漁場管理

- ・従前から漁業者団体が実施している豊川河口（六条潟）からアサリ稚貝を漁場に移植放流する取組を引き続き指導する。この取組は、栄養塩増加海域での水質浄化機能を強化するとともに、漁獲による取り上げを促進するものである。
- ・水産多面的機能発揮対策事業を活用し、漁業者の食害対策等の漁場管理の取組を支援する。



3 新たな養殖業と適正な養殖管理

- ・水質改善及び新たな無機栄養塩類の供給源として、先進技術を取り入れたカキやアサリ等の二枚貝養殖の導入を進める。
- ・高品質なノリの品種とノリ食害防除技術を開発するとともに、普及指導員を通じて気候や海況に応じた適正な養殖管理を進める。



参考 施肥と耕うんについて

○施肥

- ・本県では 1950 年代ごろから施肥の試験がたびたび行われてきたが、海水の流れによる損失が大きく効果は局所的であるという課題がある。
- ・しかし、漁業者等からの相談があれば、普及指導員による指導を行うほか、業界団体の助成を受けられる体制を整えている。

○耕うん

- ・愛知県では「けた」漁具等を使用する小型底びき網漁業が盛んに営まれており、すでに操業による耕うんが大規模に実施されている状況である。
- ・瀬戸内海の一部海域では専用の「けた」による耕うんが行われているが、兵庫県栄養塩管理計画（2022 年 10 月）では「定量的な効果等が把握できていないため、本計画では栄養塩類増加措置には位置づけない」とされている。

